

にんにん連携



『にんにん連携』から広がる多職種の輪(和)

公立甲賀病院 副看護部長 兼 地域医療連携室 室長 寺村 幸子

10月22日の第7回地域連携検討会は、サービス拒否の高齢者世帯に対する支援として、信楽地域包括支援センター、信楽荘居宅介護支援センター、水口病院（地域医療連携室）、甲賀保健所、水口病院（担当医）の順でリレートーク式に発表していただきました。

後半のグループワークでは、事例をもとに「連携がうまくいったキーポイントやヒント」「問題が起こる前にどのように対応していくか」の2点について話し合いました。今回は、病院医師、診療所医師もグループワークに参加され、多職種によるそれぞれの立場からの多角的な意見交換ができました。医師と同じテーブルを囲み意見交換ができ、人と人とのつながりを意味する『にんにん連携』のあるべき姿（甲賀圏域がめざす連携の姿）を実感できた2時間でした。

研修会報告

第7回 甲賀医療圏域 地域連携検討会が開催されました

日 時：平成 24 年 10 月 22 日（月）15 時～17 時

場 所：甲賀合同庁舎 4 階 4A 会議室

参加者：医療関係者 18 人、居宅介護支援事業所 23 人、サービス事業者 8 人、行政等 17 人

計 66 人

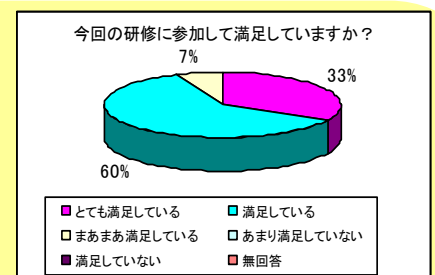
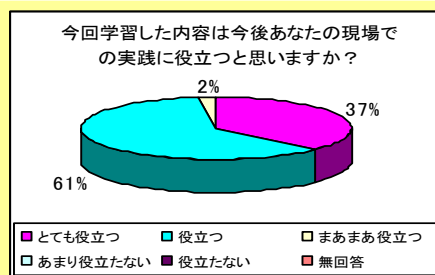
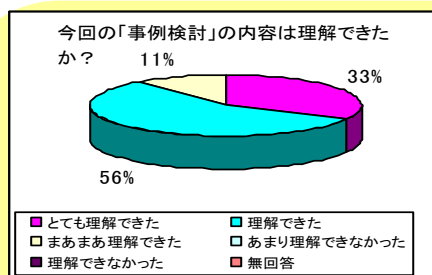
テーマ：「顔の見える関係から始まる在宅支援

～サービス拒否の高齢者世帯に対する包括的なかわり～」

内 容：介護支援専門員、担当医、地域医療連携室の担当者、訪問看護ステーション、それぞれの立場から発表し、その後グループワークで、病院と在宅との連携を考えた。



アンケート集計の結果



《感想から一部抜粋》

- ・ 医師の参加は有意義である。
- ・ こうした多職種が共通理解して、自分達はどう行動すれば、より良い連携が図れるか知る事は大切である。
- ・ 積極的に医療機関に働きかけていく必要性を感じた。
- ・ この様な顔の見える関係づくりを継続して欲しい。
- ・ 準備、通信等の準備スタッフのおかげで実のある事例検討会になると思うので今後ともお願いします。

研修会の感想（発表者の声）



水口病院
小宅 由朗 医師

今回の症例を通じて、改めて精神疾患を治療する困難さを感じました。本症例は、物忘れは顕著にみられるものの、車の運転をはじめ実行機能障害はそれ程目立たないことなどから、専門知識をもつ程に慎重を要したと思います。その上、地域との交流はほとんどなく、医療や介護サービスも拒否が強く、さらには元々の性格として、他人の言う事を全く聞かず、取り付く島がないという点でした。

私自身が関わり出したのは入院後という、言わば終盤でした。それまでの道のりは私が考える以上に険しく、紆余曲折を経たものでした。今回、精神科病院への受診は遅かったのか。振り返って考えてみると、これ程の困難事例を支援者が自分の領分を越えて積極的に関わって頂けた事、大事に至らなかったことが、最大限の努力とその結果だったと思います。

この検討会に参加させて頂きまして、支援者全体で情報を共有し統一していくことの重要性を感じました。これからも甲賀地域の支援者の一人として関わっていきたいと思います。ありがとうございました。

信楽荘居宅介護支援事業所 田中氏

水口病院 地域連携室 木田氏

今回の事例については、虐待されている妻のケアマネジャーとして、その虐待をしている夫に対し、どの様に接して行けば良いのかすごく悩んでしまったケースでした。しかし相談させて頂いた、各関係機関の皆様方のおかげで、道を開く事ができました。そして、またその後も経過を見ながら関わって行かなければいけないという事も必要であると学べました。

精神疾患の方はなかなか医療に結びつかないことが多く、また地域の中で孤立しがちというのが現状です。そういったなかで、今回の事例は、多職種がそれぞれ連携を図り、情報を共有した結果、医療に繋げられたケースでした。しかしまだまだ残る課題は多くあると思います。今後、甲賀医療圏地域連携検討会を通じて多くの地域関係者の方々の意見をお聴きし、課題に取り組んでいきたいと思っています。

信楽地域包括支援センター 西田氏

甲賀保健所 澤氏

日頃から、対象者を取り巻く関係者である医療機関・ケア・地域包括支援センターなどが連携をしていくことの大切さを改めて知る事ができました。また、緊急時の対応における迅速な対応がケース会議で顔を合わせて会議をもつことができたことで、精神科病院への連絡や保健所・警察を巻き込んだ対応ができたと思います。

精神保健福祉法を実際に運用するのは、なかなか難しいものがあります。保健所としても必要に応じて、認知症の方のケース会議等にも参加していきたいと思っています。

司会：国立紫香楽病院 平塚 氏

今回も多くの方に参加していただき、事例の提示を含めいろいろな支援者の関わりが検討出来たと思います。高齢者世帯・認知症・社会的な孤立・虐待などの問題を持った症例でしたが、一つ一つはどこにでもある症例です。この検討会を通じて、精神科や保健所との連携がさらに深まればと思います。

県の研修会のお知らせ

次回の研修会は1月の予定です！！

日 時：平成 24 年 12 月 13 日（木）13：30～16：30

場 所：滋賀県庁 東館 7 階 大会議室

内 容：平成 24 年度退院調整関係者研修会

テーマ：「病院の退院調整関係者に期待すること」

